



福澤育林友の会

東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部

TEL03-5427-1050 FAX03-5427-1190

<http://www.f-ikurin.jp>

慶應義塾は、

人と樹を育て「社会発展と環境保全」を

両立させる模範とならん

桜本 光

慶應義塾が所有する山林は、北は宮城県志津川町から南は和歌山県、西は岡山県にいたる各地に160haに及びます。この育林現場を広く教育の場として、また、交流の場として活用し、一貫校、各学部、大学院生、また広く社会の人材育成に役立てております。また、塾では複合研究領域である地球環境問題にも各学部の協力のもとに取り組んでいます。その研究の特徴は、実学の精神で、「研究のための研究」ではなく、現実的な目標に向けて社会に貢献する実践を目指しているということです。たとえば、中国環境環境研究会では、1999年より中国の瀋陽市康平県における植林活動を行っております。この植林は、隣接する内モンゴル自治区のカルチン砂漠から流入する砂によって耕作地が砂漠化することを防ぐためのもので、その目標は幅100メートル、長さ100キロに及ぶ防風・防砂林（通称、中日友好林または、百里緑城）。これまでの植林活動で長さ45キロ（450ha）まで

が完成しています。そして私たちは現在、この中日友好林をCDMによって事業化すべく、日本と中国の政府関係機関や国内企業に働きかけています。CDMは、京都議定書で決められている京都メカニズムの一つで、温室効果ガス排出量の数値目標が設定されている先進国（日本）が、数値目標が設定されていない途上国（中国）において排出削減（または吸収増大）のプロジェクトを協力して実施し、その結果生じた排出削減量（



または吸収増大量）をクレジットとして獲得できるスキームのことです。地球温暖化ガス問題解決には、排出ガス量に応じて負担し、その財源で、省エネ投資や育林などによる吸収活動を活発にすることが重要になります。塾は、研究・教育活動による、排出ガス削減の努力と育林によるガス吸収量が等しくなる「ゼロエミッション」学校法人をめざすことが重要です。21世紀は「人類の存続」が何よりも重要なテーマとなる時代ですから、若い人たちが環境保全に関わることは、世代をつないでいくという意味においても重要です。今後、この国内外の育林事業を塾全体の研究・教育活動の一環として位置づけ、すべての塾生・塾員が地球環境問題について考えるきっかけとしたいと考えております。



「森を愛する人々の集い」



第6回「森を愛する人々の集い」が6月9日慶應義塾三田校舎に於いて開催されました。本年は異文化コミュニケーターのマリ・クリスティーヌさんに「まちづくりを考える」と題して講演をしていただきました。

マリ・クリスティーヌさんはお父様のお仕事の関係で小さいときから色々な国で過ごされました。幼い時にご両親と過ごされたドイツの黒い森やアメリカのブルーリッジ山脈、そしてイランの美しい森などに滞在し、各国で自然に

親しんでこられました。そのような幼少の経験から導かれた彼女のお考えや活動のお話を伺いました。

イランは砂漠の国だと誰もが思っていますが、パーレビ政権時代に木を植えるようになりました。木は水を呼び、それ以来全く雨の降らなかったところでも年に1,2度は雨が降るようになり、最近ではもっと雨が降るようになったそうです。

タイでは熱帯雨林がどんどん伐られて地球温暖化も心配されていますが、さて私たちが何をすれば温暖化をストップできるのかとなると、自分達の庭先で起きていることではないので、なかなか深刻になれないのが現状です。しかし私たちができる事から始めてこそ町づくりが行われるのです。

国連の町づくり機関 HABITAT で仕事をする事になりましたが、災害後、元の生活に戻れるよう復興支援のお手伝いをしています。家を建てるにも生活をするにもコミュニティーの働きが大切であるという事を実感しています。

タイでは子供たちの通う学校が足りないと知り13年前から友人5人と一緒にボランティアでバザーなどを開いて資金を集め、学校を建てました。学校を建てるだけに留まらないで子供たちに必要な物を寄付し、その先何が必要なのか現地の人と話し合っ町づくりをする活動を続けています。

ボランティア活動や自然環境を守る活動は、経済活動と縁遠いように感じられますが、持続可能な人間関係や自然環境はエネルギーが動いているのでエネルギーを金銭に換算した場合、大変な経済活動です。

ボランティアとか町づくりなどを奉仕というイメージに繋がってしまうので、考えを変えるのが大切なのではないのでしょうか。そして町づくりを考えると、地域の価値観をきちんと持ち、住民みんなが安心して暮らせるルール作りをする事が重要だと思います。

「人と仲良くする事」を子供たちに教えることが自然環境を守るためにも必要な原点だと思います。人として大切な事をすれば必ずとしていい町づくりが出来、景観はそれに伴ってくるものと語られました。

幼少の頃からの海外生活や現在の様々なボランティア活動、愛地球博チーフプロデューサーなどの経験を通して、人として何が大切なのかを教えていただきました。

講演後の懇親会でも参加者の皆様と和気藹々に歓談ははずみ、マリ・クリスティーヌさんが色々なボランティア活動をなさっている事に驚きと敬意を表し、地球の人々が安全で平和な暮らしができるよう活動なさっている姿に大きな拍手を送りました。

(文責；速水 紫乃)

～平成18年度研究支援団体補助の研究発表～



「子供たちに自然の水辺を
蘇えらそう！もう一度」

旧中川のヘドロを含ん
だ水をきれいになりました



今回の(財)福澤記念育林会研究支援団体補助金は、チーム クリアーウォーターリバイバルの関谷 隆三郎氏を代表とした都立橋高校(全国初の産業学をメインとしてこの4月に創立した)の新生有志7名が行った「子供たちに自然の水辺を蘇えらそう！もう一度」に補助しました。

同プロジェクトは、生徒が環境関連産業の重要性を考えるきっかけにしようと、同校が授業とは別に希望者を募り、河川浄化を手掛ける(株)環境保全の専門家らの指導協力も得ながら行われたものです。



プロジェクトは4月下旬に旧中川から採取したヘドロを含んだ水を、木炭、檜のウッドチップ、海水から取れるミネラル(主に水酸化マグネシウム)の3種類の自然の浄化剤が組み合わせを変えて入れられた8種類の水槽(ひとつは浄化剤無し)に分け開始されたものです。生徒たちは定期的に、においや透明度、COD(化学的酸素要求量)、硫化物濃度、pH等を測定し、約1ヶ月の推移を記録して、分析しました。5月中旬には、海水のミネラルと木炭の入った水槽にグッピーが放流され、その後も生き生きと泳いでいる姿が観察でき、成果を得ての発表を行うことができました。特に、木炭と水酸化マグネシウムを組み合わせが、臭いに関しても透明度についても一番の結果を出しました。

100名近い講演会参加者を前に生徒たちは発表前いささか緊張した様子でしたが、いざ壇上に上がると、生徒7名全員が成果報告の内容をそれぞれしっかりした声と落ち着いた姿勢で発表を行いました。発表の最後を代表者の関谷氏から生徒たちに送られた「このプロジェクトがこれで終わるのではなく、これからみなさんが、小さな子どもたちに環境を良くしようよと堂々と言えるよう成長して欲しい」という願いを込めた手紙の紹介と、自分たちの「青くきれいな地球を1分1秒でも長生きさせるために私は何ができて何をすれば

よいのかを常に考え実行していきたい」という決意の言葉で堂々と締めくくると、会場に一瞬感動の空気が流れた後、大きな拍手が生徒たちに送られました。生徒たちの発表後には手紙を頂いた代表者の関谷さんご本人から生徒たちへ再度激励の言葉が送られ、また都立橋高校の大室校長からも、福澤記念育林会への御礼と、産業と環境を考えて学習を進めるといふ学校の理念の話も頂き、H18年度の研究支援団体補助の研究発表を終えました。

福澤記念育林基金の募集案内

友の会ニュースの今年の正月号で「福澤記念育林基金」の設置をお知らせしました。基金の選考委員会を立ち上げ準備してきました。

平成19年度募集については、以下の通りです。

	活動支援	研究支援	研究者の海外派遣支援
支援事業	我が国の先導的な森林環境の保全に関する研究および事業活動を発展させることや森林等が自然環境にもたらす影響の改善等を目的とする研究および事業活動の支援	国内において、森林環境の保全等による公益の増進に資する研究活動を行う大学院生及び研究者を対象にした研究費の支援	森林環境の保全等による公益の増進に資する研究活動を行う大学院生ならびに研究者を対象にした海外の大学または研究機関への留学のための奨学金の支援
応募資格	高校生以上の学生・研究者およびNPO等の団体	大学院生以上の研究者	大学院生以上の研究者
応募期間	H19.7.20～H19.9.30	H19.7.20～H19.9.30	H19.7.20～H20.3.31
調査・研究および留学期間	H19.4.1～H20.3.31	H19.4.1～H20.3.31	H20年度以降の留学
調査・研究および留学条件	ナシ	平成19年度テーマ (1) 樹種や環境(大気・水・土壌や酸性雨の影響等)の相違による、樹木の地球温暖化ガスの吸収に関する研究 (2) 間伐材を含む木材の新たな有効利用方法に関する研究 *3年間を限度に継続可	原則として、留学期間1年以上
支援金額	200,000円	1,000,000円	2,000,000円

* 研究者の海外派遣支援については、平成20年度の支援で今回は応募のみです。詳細は、ホームページをご覧ください。皆様の応募をお待ちしております。

平成18年度福澤育林友の会収支

会員；254名(内学生・生徒4名)

退会者；H18年度：2名

平成18年度	収入	支出	摘要	
前年度繰越金	1,617,698			会費の口座振替について 平成19年度会費の口座振替予定日は平成19年9月25日(火)を予定しています。
会費	2,035,000		H18年度会費(226名分)	
	50,000		H19年度会費(1名分)	
寄附金	120,000		個人寄附	
利息	1,260		普通預金利息	
印刷物		167,000	パンフレット	
通信費		32,760	会費引落案内通信費	
手数料		27,551	会費引落サービス手数料	
当年度収支	2,206,260	227,311		
次年度繰越金	3,596,647			